

四国へんろ展

徳島編

写真家三好和義
の作品同時展示

四国霊場開創一二〇〇年記念四県連携事業

空海の足音

こころに響く、未知がある。

四国遍路の歴史と文化を、より大きな視野で捉え総括する初の企画展。
今も生き続ける四国遍路の奥深い世界と精神性に触れる
またとない機会です。どうぞ、お見のがしなく。

平成26年10月25日(土) — 11月30日(日)

文化の森総合公園 徳島県立博物館

開館時間: 9:30-17:00 休館日: 10月27日(月)、11月4日(火)、11月10日(月)、11月17日(月)、11月25日(火)

770-8070 徳島市八万町向寺山 <http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp>



徳島新聞
創刊70周年
記念事業

四国霊場開創一二〇〇年記念四県連携事業

空海の足音 四国へんろ展

徳島編

写真家 三好和義の作品同時展示

平成26年10月25日(土) — 11月30日(日)

文化の森総合公園 徳島県立博物館

開館時間: 9:30-17:00 休館日: 10月27日(月)、11月4日(火)、11月10日(月)、11月17日(月)、11月25日(火)
770-8070 徳島市八万町向寺山 <http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/>

■ 関連行事

(1) へんろ学入門セミナー①

日時: 11月1日(土) 午後1時30分～午後3時

講師・演題: 真鍋俊照氏(総合監修者、四国大学教授)「四国遍路と美術」

会場: 徳島県立博物館 講座室 対象: 一般50名

◎参加無料 *別記の方法による事前申込が必要です(10月22日必着)

(2) へんろ学入門セミナー②

日時: 11月8日(土) 午後1時30分～午後3時

講師・演題: 町田 哲氏(鳴門教育大学准教授)「近世の札所寺院と四国遍路」

講師・演題: 須藤茂樹氏(四国大学准教授)「絵画・彫刻に見るお大師さんのおすがた」

会場: 徳島県立博物館 講座室 対象: 一般50名

◎参加無料 *別記の方法による事前申込が必要です(10月29日必着)

(3) 遍路道★花ウォーキング[川島・阿波]

日時: 10月26日(日) 午後1時～4時

対象: 小学生から一般20名(小学生は保護者同伴)

◎参加無料 *別記の方法による事前申込が必要です(10月16日必着)

(4) 地蔵峠[眉山]の遍路道を歩こう

日時: 11月23日(日) 午後1時～4時

対象: 小学生から一般20名(小学生は保護者同伴)

◎参加無料 *別記の方法による事前申込が必要です(11月13日必着)

◎観覧料: 前売1,000円(当日 一般1,300円、高齢者[65歳以上]1,100円)

*高校生以下、障がい者及び介助者1名は無料*20名以上の団体は前売料金

◎前売り券販売所: 徳島新聞社地域振興部、徳島新聞各販売店、小山助学館本店、エアトラベル徳島

◎お問い合わせ: 四国へんろ展徳島実行委員会 事務局[徳島新聞社地域振興部内]

Tel 088-655-7331[平日9:30-17:30]/徳島県立博物館 Tel 088-668-3636

主催: 四国へんろ展徳島実行委員会、徳島県教育委員会、徳島新聞社、四国へんろ展開催協議会

特別協力: 四国八十八ヶ所霊場会、四国八十八ヶ所霊場会阿波部会、高野山真言宗総本山金剛峯寺、総本山普通寺

協力: 四国大学、鳴門教育大学/後援: 文化庁、国土交通省四国地方整備局、

四国霊場開創1200年連絡協議会、「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会

特別協賛: 日本運送株式会社/総合監修: 真鍋俊照氏(四国大学教授)



弘法大師坐像(重要文化財)
奈良県 元興寺蔵

(5) スペシャル・トーク

日時: 11月2日(日)、3日(月・祝) 午前11時～正午、午後1時～2時

講師: 三好和義氏(写真家)

◎観覧券が必要です

(6) 展示解説

日時: 10月26日(日)、11月9日(日)、16日(日)、23日(日)、24日(月・休)

午後1時30分～午後2時30分

◎観覧券が必要です

* (1)～(4) 参加申込方法

- 往復ハガキに①希望する行事名、
 - ②氏名(小学生の場合は、本人及び保護者)・学年、
 - ③住所、④電話番号を書いて、徳島県立博物館までお送りください。
- 希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。



他県開催情報 *本展は巡回展ではなく、各県で展示作品が異なります。

高知編 高知県立美術館: 8月23日(土)～9月23日(火・祝)

愛媛編 愛媛県美術館: 9月6日(土)～10月13日(月・祝)

香川編 香川県立ミュージアム: 10月18日(土)～11月24日(月・休)

JR徳島駅からバスをご利用ください。

◎徳島市営バス3番のりば「文化の森」行き直通バスに

乗車し18分、終点「文化の森」で下車。

◎徳島市営バス3番のりば「しらかぎ台」行き、「一宮」行

き、または「天の原(入田)」行きに乗りし16分、「園瀬

橋」下車。徒歩約10分。

◎徳島バス4番のりば「仁井田西」行き、または「佐那河

内線 神山高校前」行きに乗りし16分、「園瀬橋」下車。

徒歩約10分。

*JR文化の森駅からは、徒歩で約35分(2km程度)で

す。タクシーバスの便はありませんので、ご注意ください。



二〇一四（平成26）年、弘法大師空海（774（835））が四国霊場を開創したといわれる弘仁六（815）年から数えて二二〇〇年の節目を迎えました。これを記念して開催する「空海の足音 四国へんろ展」は、長い歴史の中で育まれてきた四国遍路という文化を改めて捉え直していこうとするものです。

空海の生涯や弘法大師信仰の興隆、四国遍路の成立・展開とともに、札所に伝えられた信仰の世界などを、最新の調査研究成果を踏まえながら、国宝四件、重要文化財一八件を含むおよそ一三〇件の文化財を通じて紹介します。これらの中には、初めて展示公開されるものもあります。あわせて、徳島県出身の写真家三好和義の撮影による写真およそ一一〇点を展示することで、四国遍路の「いま」をデジタルに伝えていきます。

この展覧会が、四国遍路の過去・現在を結び、未来へ向けての一步となるように、そして、世界遺産登録に向けての機運の高まりにつながることを念願しています。*作品保存のため、会期中に展示替えを行います。



徳島県指定文化財 弘法大師坐像(室町時代) 徳島 第8番 熊谷寺蔵

第4幕 四国遍路の周縁

四国の人々の間に根付いていた巡礼や、四国にやってくる人々にとっての巡礼は四国遍路だけに限られるものではありませんでした。「四国・西国」とセットにされることがあったように、西国巡礼がさかんでしたし、坂東・秩父巡礼、六十六部廻国巡礼なども行われていました。また、信仰の旅という意味で巡礼と類似する金毘羅参詣、伊勢参詣などもポピュラーで、前者は四国遍路と、後者は西国巡礼と、それぞれ複合することもありました。さらに、長距離であったり、遠隔地にあたりする巡礼の代替的なものとして、写し霊場」が各地につくられ、四国八十八ヶ所や西国三十三所のミニ版もありました。このように、巡礼や参詣の多様な展開の中で、四国遍路は「選択肢」の一つであったといえます。

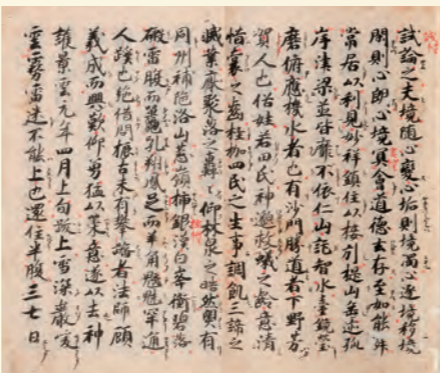


廻国行者の笈(江戸時代) 徳島 東福寺美術館蔵

廻国行者の笈(江戸時代) 徳島県立博物館蔵

第1幕 空海と弘法大師信仰

弘法大師空海は、讃岐（香川県）に生まれ、後に唐に渡り真言密教を学び、これを日本に伝えて活躍しました。若き日の空海には山林修行僧としての側面があり、四国の山や海岸で修行したことが知られています。高野山での入定後、末法思想や浄土信仰の流行とあいまって、空海が人々の救済のために生き続けているという信仰が各地に広がり、人々の中に浸透しました。こうして弘法大師信仰が定着したことにより、高野山が霊場として栄えるとともに、空海の故郷である四国は聖地とされ、霊場が誕生しました。



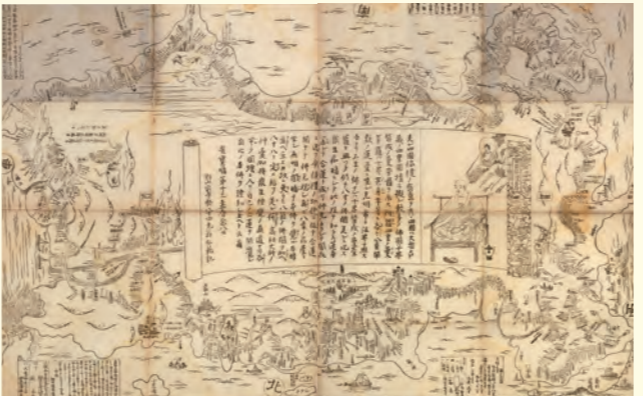
重要文化財 性霊集(鎌倉時代) 京都 醍醐寺蔵



重要文化財 高野大師行状図巻一(鎌倉時代) 兵庫 白鶴美術館蔵

第3幕 四国遍路の定着と展開

戦国時代になると、四国遍路は在俗の人たちによっても行われるようになりました。旅の形態も、室町・戦国時代を通じて、海岸巡りから大師信仰に基づく札所巡礼へと移り変わっていったとみられます。江戸時代に入ると、札所等のネットワークにより旅の安全を保障する体制、霊場の整備などが確認できます。さらに八十八ヶ所の番号と札所の対応関係が明確化されたり、遍路道が整備されたりして、四国遍路が完成したのです。各種の案内書や地図が刊行されたことから、民衆文化として定着・浸透し、多くの人々が四国を旅しました。明治時代初期には、四国遍路はいったん衰退しますが、次第に復興し、交通手段などの旅のスタイルも多様化していきました。



四国遍路絵図(江戸時代) 徳島 四国大学附属図書館蔵

第5幕 信仰と美

札所には、それぞれの歴史と個性があります。そして、各札所に伝来する宝物は、それを背負った文化財といえることができます。近年各所で進められている札所の文化財調査によって、新たに見出されたものも多いため、今後、個々の札所はもちろん、四国遍路全体について、歴史の解明が進んでいくことになるでしょう。徳島県内の札所の文化財を通じて、長きにわたって続いてきた信仰の世界に触れてみたいと思います。



不動明王坐像(室町時代) 徳島 第21番 太龍寺蔵

第2幕 道行く聖と四国遍路の形成

平安時代後半、四国は大師信仰の聖地であるとともに、阿弥陀や観音の浄土に結びつけられました。この頃、山林修行などを行っていた聖たちによって、四国の海岸を巡る四国辺地の修行がなされました。鎌倉・南北朝時代には、同様のものである四国辺路が、山伏の修行の環として行われていました。これは、全国的な広がりを見せ、四国にも浸透していた熊野信仰との関係の深いものでした。さらに、高野聖、六十六部廻国聖などの宗教者が四国を行き交っていました。こうして、様々な信仰と宗教者の活動が入り混じることによって、四国遍路の土台が形づくられていったと考えられています。



笈(室町時代) 奈良国立博物館蔵 (撮影佐々木香輔氏)



重要文化財 重源上人坐像(鎌倉時代) 兵庫 浄土寺蔵
写真提供 奈良国立博物館 (撮影森村欣司氏)

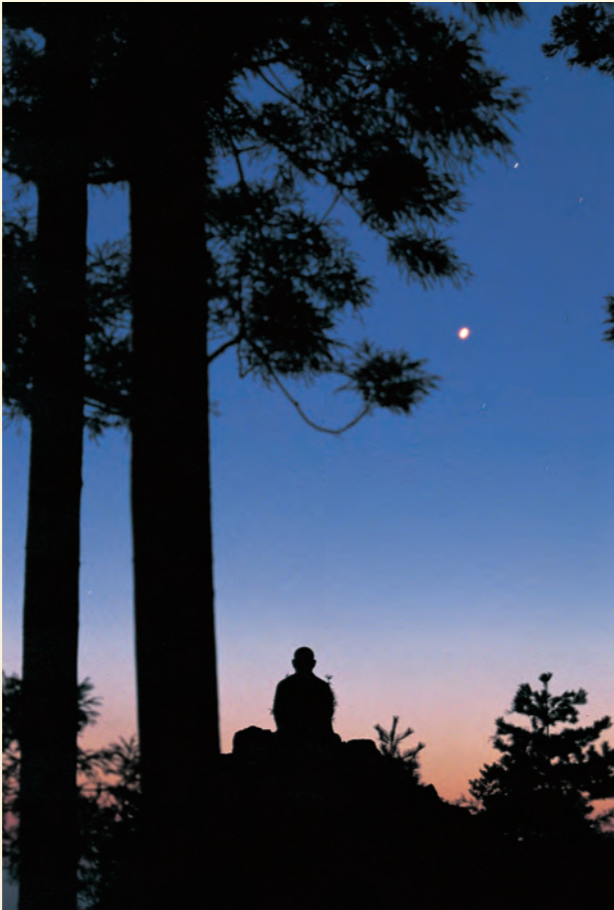


徳島県指定文化財 両界曼荼羅図(南北朝時代) 徳島 第2番 極楽寺蔵

第6幕 四国遍路のいま

「写真家三好和義が撮る「遍路の旅」」

20世紀末から続く経済の低迷、社会不安の中、癒しや自分探しの旅として、世代を超えて四国遍路はさかんに行われています。古くからの伝統とともに現代的な意味をもつて生きている、今なお「現在進行形」の四国遍路の世界にアプローチし、未来をも考えてみたものです。徳島県出身の写真家三好和義が撮影した札所、本尊、お遍路さんなどを通して、今を生きている四国遍路の世界を感じて、いただきたいと思えます。



右上:第8番 熊谷寺(徳島) 桜並木
右下:第12番 焼山寺(徳島) 雪景色
上:第21番 太龍寺(徳島) 夜明け前
左:第51番 石手寺(愛媛) 大晦日 万灯会

